

一宮町長  
馬淵 昌也

最近ようやく寒くなってきた感じですが、昨年の夏は大変暑く、また長かったですね。一昨年也大変暑かったわけですが、二、三数年、夏の極端な暑さで、一宮の農作物に色々影響が出ているそう、心配です。まず、昨年は夏にトマトの生育障害が生じて品薄となり、価格が数十年ぶりに大きく跳ね上がったそうです。ただ、収量が減ったので、収入増にはつながらなかったと伺いました。また、新高など、晩生の梨は、暑さで「日焼け」とよばれる果実の変質がおこり、ほとんど出荷できなかった、とお話伺い、ふるさと納税の返礼品に影響が出ました。また、夏場はネギの栽培がうまくゆかず、大量の廃棄品が出たということも伺いました。

一昨年のことになります、農業士会の皆さまの研究会で、千葉大学の先生が、地球温暖化の農業に対する影響について発表されたお話を耳にしました。そのお話では、「今後、平均気温も上がり、また個別に温度の高い日の出現頻度も上がって、大きな環境変化が起こることになる」とのことでした。特に「地球的規模で、赤道に近い低緯度地帯で、深刻な水不足が起って、食糧危機がやってくるだろう」ということでした。ただ、「中緯度地帯に属する日本などは、そこまで深刻な打撃は受けず、特に三方海に囲まれた千葉県では、水不足は考えられない」とのお話でした。そして、「暑さによる作物の変更は免れないものの、そこさえうまく対応できれば、今後も長く農業大県としての地位を維持できる」という結論でした。

その結論を伺って少々安心もいたしました。やはり作物を転換してゆくというのは、営業者の方々にとって簡単なことではありません。今後、国・県や各方面の専門家の協力を得て、町もお手伝いをしながら、進めてゆくべきだと強く思います。